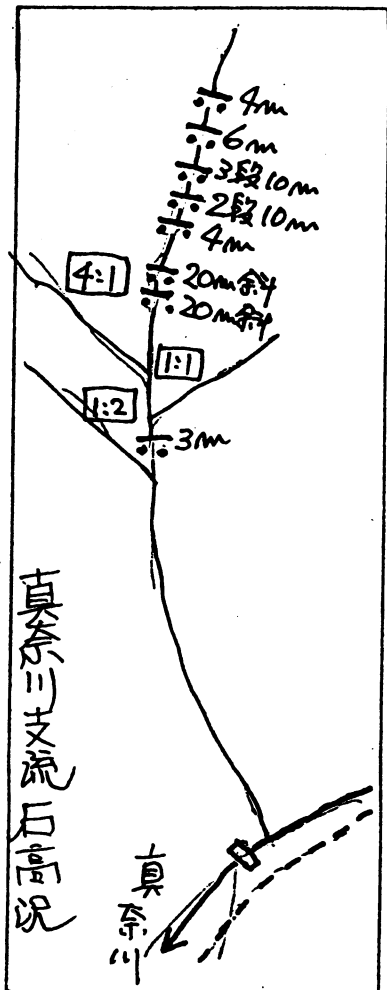


真奈川支流石高沢

1995年7月30日



降開始(12:05)→真奈川出合(14:40)

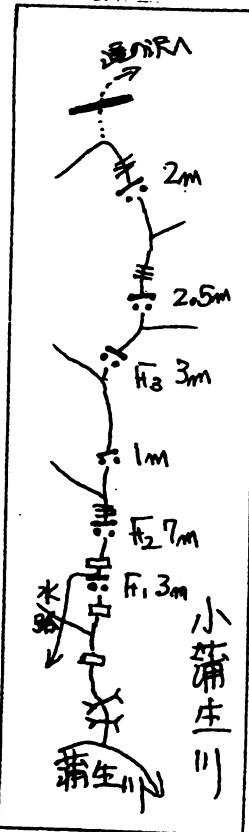
この沢の下降は、予定していたものではない。間違っ大倉沢を遡行してしまい、大倉山の三角点からの下降路として利用したものである。

大倉山山頂で降りる沢を探す。叶津川に降りないように、蒲生岳を遠目に確認して、方角を定め真奈川へ向けて下降を開始する。沢の上部を過ぎると、10~20mの滝が続いて出てくる。斜瀑なので、クライミングダウンで降りられる。

この沢は降りる時から確信がもてていない。現在地確認ができないまま、下降を続ける。滝もなくなり、河原歩きが続く。一本尾根違いの叶津川に出るのではないかと不安を抱きながら歩き続ける。下降を始めてから約2時間半で真奈川出合の砂防ダム上部に出る。ここまで来て、ようやく石倉沢を下降してきたことに気づいた。

(記・)

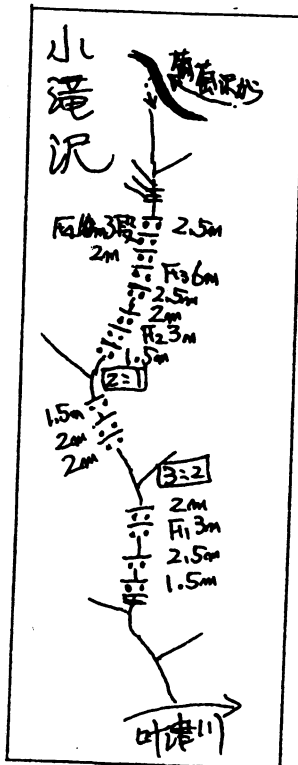
[タイム] 大倉山三角点・下



蒲生沢支流小蒲生川右俣

1994年7月30日

蒲生川との出合より入る。沢は小さく、水量も少ない。橋を2つくり堰堤2つを越えるとF₁ 3m。この滝の上に取り水地点があった。これでは下流部の水量が少なくなるはずである。F₂ 3mは難なく越える。この先は水量がやや多くなった。



沢はナメ状で、こげがついている。岩は青かった。F₂7mを直登すると、しばらくは河原歩きとなった。

1時間半ほど歩いた所で二俣となり、右に入る。すぐのF₃3mを越えると、もう水も少なくなり、沢も狭くなってきた。騒々しいアブもいなくなったが、オニヤンマがやけに多い。小滝とナメを越えて少し歩いてから、滝の沢への下降が楽のように、右の支沢に入る。ヤブこぎ5分で尾根に出た。

(記・)

[タイム] 小瀧生川出合(8:10)→二俣(9:30)→遊行終了(10:45)→尾根(10:50)

叶津川支流小滝沢 1995年7月30日

尾根から下り始めると、すぐ湿原に出る。ミズバショウが生えていた。小沢が2本合流すると、滝が連続するようになった。

F₄約10m 3段滝がこの沢最大の滝で、クライミングダウンする。このあとも小滝を次々に下り二俣へ。左俣の方が水量は多かった。

二俣から先も次々に小滝がかかる。この沢は名前の通り小滝の連続する沢である。次の小滝群を降りナメを過ぎると支沢が2本合流し、河原状となって、叶津川まで続いていた。叶津川対岸の林道に上がり、今日の行動を終えた。

(記・)

[タイム] 尾根(9:25)→叶津川出合(11:10)

叶津川支流葡萄沢 1995年7月30日

車で送ってもらい、叶津川にかかる橋より少し下った地点から、対岸の葡萄沢に入る。沢幅は狭いが、水量は比較的多い。遊行を始めるとすぐにF₁4mと小滝があり、先が楽しみ

